JAPANESE RED CROSS TOYOTA COLLEGE OF NURSING

Vol.36

ITOSUA!

いとすぎの丘





日本赤十字豊田看護大学

- 02 地域貢献
- 03 卒業生インタビュー
- 04 学校生活

RCT☆LINK 写真で見る学生生活 キャンパス紹介

05 Information

01 大学行事

■ 博士課程学位記授与式

9月28日(水)に博士課程の学位記授与式を執り行いました。学長・研究科長・学部長をはじめ、指導教員や関係教職員も出席し、新たな門出を祝いました。

本学初の博士課程修了生を送り出すにあたり、日本 赤十字豊田同窓会よりアカデミックガウン作製のため のご寄付をいただきました。



(左から) 山田学部長・鎌倉学長・田崎さん・百瀬研究科長・山田事務局長



指導教員の大西特任教授と

博士課程での思い出

日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻 修了生 田崎あゆみ

博士課程の第1期生として入学し、第1号として修了することができました。私は、大学教員への転職を機に進学しましたが、慣れない仕事に四苦八苦しながら大学院の課題や研究計画に追われる日々が続き、正直、進学するタイミングを間違えた!という思いがよぎりました。そんな私をいつも温かく見守り支えてくれたのが、指導教員の大西文子先生です。大西先生は、常に明るくバイタリティがあり、データ分析では休日を返上したゼミ、論文作成では夜遅くまでの指導をしていただきました。修了まで何度も挫けそうになりましたが、大西先生の叱咤激励や院生同士での励まし合い、大学事務局によるコロナ禍での学習環境の整備など、多くの方々の支えにより、最後まで成し遂げることができたことに心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

■ 博士課程の今後の展望

研究科長 百瀬 由美子

本学大学院博士課程は、北海道、秋田、広島、九州 の赤十字看護大学と共同し、双方向の遠隔授業シス テムを活用し、多彩な教授陣による研究指導を行って います。この度、本学所属の初の修了生を輩出する運 びとなりました。大学院で培った学識と研究成果を医療現場で発揮されることを期待しています。これに続き今後も同窓会会員の皆様や社会の期待に応えるべき、国際的な学術交流や、研究指導教員の増員とともに、指導力の更なる向上を図っていきたいと思います。

■ 第12回日本赤十字6大学学生交流会

自治会役員3年 黒木 綾華

9月5日(月)、「赤十字の7原則からみた国際支援 (国際活動)」をテーマに第12回日本赤十字6大学 学生交流会を開催しました。新型コロナウイルス感 染症の蔓延により、対面ではなくオンラインツール を使用しての開催となりましたが、日本赤十字学園 の6つの看護大学から26人の学生が参加しました。

午前中は、今年度の主催校である本学の学生スタッフが考えたゲームを行いました。初対面の人ばかりでしたが、参加者の緊張がほぐれ、楽しく交流を深めることができました。午後には、海外での救護・救援活動経験のある看護師を講師に迎え、国際支援の実際について話を聴きました。貴重な話ばかりで新しい知見を得ることができました。また、講演の後には、赤十字の看護学生として国際支援に対してどのような行動ができるかを様々な地域・学年

の学生と討議したことで、多様な考え方に触れることができました。

次回の開催地は日本赤十字看護大学です。今年はオンライン開催となりましたが、次回こそは対面で開催され、赤十字の看護学生の交流が深まればと思います。



交流会参加者と記念撮影

■ いとすぎ祭

5月27日(金)に大学祭「いとすぎ祭」を開催しました。3年生のいとすぎ祭実行委員が中心となって、他学年と交流できるイベントを実施しました。当日は、1~3年生の学生が参加し、笑顔あふれる1日となりました。

いとすぎ祭実行委員長 3年 節田 結莉乃

キラキラした大学生活を想像し入学した先は、孤独な画面越しの日々。そこで、いとすぎ祭が学生同士の繋がるきっかけとなるようにという願いを込めて、今回「繋(つなぐ)」をテーマに掲げました。

多くの制限がある中での開催は決して簡単ではありませんでしたが、今だからこそできることを必死で模索し続け、行ったのが「トレジャーハント」と「学校探検」です。

私自身もこのいとすぎ祭を通して多くの人と繋がることができ、特に、多くの困難を共に乗り越えた実行委員の4人は私にとってかけがえのない仲間となりました。参加してくださった皆さんにとっても、これが繋がるきっかけとなり、大学生活の思い出の1ページとなっていたら嬉しいです。さらに成長していけるよう、自己研鑽に努めてまいりたいと思います。



いとすぎ祭実行委員 (中央が節田さん)

オープンキャンパス

7月23日(土)と8月19日(金)に、感染防止対策を取りながら、午前・午後の2部制で参加者を入れ替える方式とし、人数制限ありの完全予約制にて参集型のオープンキャンパスを実施しました。2日間で合計407名の高校生とその保護者の方が参加されました。

企画内容は、模擬授業、看護体験、展示、在学生 および教職員による相談ブースに加え、今年度は赤 十字の活動と本学卒業後のキャリアを紹介する一環 として、本学の大学院生であり国際医療救援経験の ある看護師の講演および赤十字事業の紹介ブースも 設置しました。



災害看護学の看護体験 (トリアージ)

当日の運営には、学生ボランティア70名も携わってくれました。本学で一緒に学ぶ仲間を迎えるため、丁寧かつフレンドリーに積極的に高校生たちと関わっていた学生たちは本当に頼もしく、本学の誇りであると感じました。そのおかげで、参加者アンケートにも「親身になって接して下さる学生の皆さんや先生方がすごくアットホームで、この大学に行きたい気持ちが強くなりました」というコメントが寄せられ、242人(82.6%)の高校生が「オープンキャンパスに参加したことで本学を受験してみようと思う気持ちが強くなった」と回答してくれました。



在学生による個別相談ブース

02 地域貢献

豊根村で健康講座を開催

8月30日(火)に愛知県豊根村の高齢者サロンにて健康講座を開催しました。今回のテーマは、「避難所での対応とリラックスする方法を知ろう」です。参加者の皆さんとともに深部静脈血栓症や生活不活発病の予防運動を、"じ~んせい~"のなじみの曲を口ずさみながら行いました。リラクセーションではペアで軽擦法を行い、「体がぽかぽかする」

「温かいねぇ」との感想をいただきました。午後には、段ボールベッドや閉鎖式簡易トイレを使ったり、ホットタオルを作ったりと、避難所生活を模擬体験しました。段ボールベッドの感想には会場に笑い声が響き、「知っているだけでなく、実際に体験出来てよかった」との声が多く聞かれました。



段ボールベッドを体験

■ 豊田高校「健康生活支援演習」の開講

本学では、大学教育・高校教育及び相互の研究活動を活性化することを目的として2018年より愛知県立豊田高校と高大連携協定を結んでいます。

今年も8月2~4日の3日間、豊田高校の医療看護コースを希望する2年生約30名が本学にて「健康生活支援演習」を受講しました。

看護師として被災地での災害救護・国際救援経験もある教員より、災害の具体例や災害時のこころのケア、国内外での赤十字看護師の救援活動についての講義、本学の教材を使用してBLS(心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置)やAEDの使用方法、応急処置などの実技も行いました。

演習の最後には、職員の案内のもと、看護実習室のリアルな多機能シミュレーターや図書館、災害救護用備蓄倉庫など構内を見学しました。

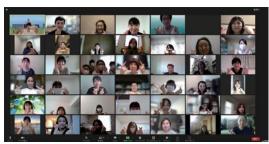


三角巾による応急処置

■ 専門職向け研修会を開催

「はじめての実習指導〜病院編〜」をテーマとしたオンライン研修会を9月17日に開催しました。北海道から九州まで、幅広い地域から約60名の看護師の皆さんがご参加くださいました。臨地実習指導を研究テーマとしている本学基礎看護学山田教授が講義を担当し、臨地実習の意義や教育上の位置づけ、臨地実習指導者の役割について解説しました。参加者との意見交換も交えながら、終始、和やかな雰囲気で会が進みました。

本学学生のみならず、未来の看護師育成のために、教員と協働する臨地実習指導者の皆様に役立つ活動を今後も継続していきます。



研修会参加者の皆さん

■ 豊田西高校SSH成果発表会への参加

7月28日(木)に豊田西高校が主催する「スーパーサイエンスハイスクール成果発表会」に本学の教員が参加しました。本学はこの発表会に平成29年度より参加しており、今回で5回目の発表となります。地域の研究機関として、研究や地域での取り組みについて発表をしています。

今回は、本学教員が2題発表しました。一題は、「身体接触法により生じる身体反応の特徴」について、心電図の簡易測定の実演なども交え発表を行いました。もう一題は、「口腔ケアによる模擬唾液の飛散の実態調査」について発表を行いました。本学のブースを訪れた高校生は熱心に聴講し、研究の内容に関するディスカッションを活発に行っていました。

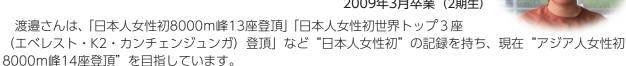


本学教員による発表

卒業生インタビュー

現役看護師であり登山家 渡邊直子さん

2009年3月卒業 (2期生)



看護師になろうとしたきっかけは?

看護大学に入る前に行ったヒマラヤ山脈登山で 保健係になりました。その時に登山仲間や現地の 人が頼ってくれて、自分の存在意義を感じました。 この経験から看護師になろうと思い、看護師だっ た母に「赤十字の病院は医師と看護師が同等の立 場で医療に向き合っている」という話を聞き、こ の大学を受験しました。

卒業後の看護師キャリアは?

はじめは都内の病院の手術室に勤務しました。2 年後にエベレスト登頂に挑戦するため退職、帰国後 は高地での健康管理に役立つと思い、大学病院の呼 吸器内科に勤務しました。挑戦するたびにもっと自 中に登りたいと思い、フリーランスの看護師に転向

し、今は健診業務や色々な老人施 設の夜勤のピンチヒッターとして 働いています。看護師の資格があ るので、登山を中心に仕事との両 立が図れていると思います。



卒業後の手術室勤務

大学での学びがどのように活かされていますか?

大学で学んだことのひとつに「人道」があります。 苦しんでいる人は敵味方の区別なく救われなければな らないと4年間叩き込まれたので、ヒマラヤで病気や けがで困っている人をみると、誰とか関係なく、身体 が勝手に救援に向かっている自分がいます。

もうひとつは老年実習で試行錯誤しながらケアを



在学時、本学中庭にて (下段中央が渡邊さん)

行った経験です。自分のケア の結果、認知症の周辺症状が 落ち着く様子をみて、精神的 ケアがとても重要で大きな力 を持っていることを実感し、 その後の看護に活かされてい ます。今では山での高山病の ケアに役立てています。

登山の魅力とは?

アジアの子どもたちが集まって色々な国で冒 険をする団体に参加したことがスタートです。 小学4年生の時に初めて雪山に登って、景色の すばらしさにはまりました。

登山の魅力は、本当の自分に戻れることです。 地上ではストレスで人に接することに疲れるこ とがありますが、山ではそれがなくなります。 また、様々な国の人たちが生活を共にする中で いろいろなハプニングが起こりますが、それも 生きているから起こることなので面白いと思っ ています。8000m級の雪山登山は、皆が「い つ死ぬかわからない」と思いながら山を登って いるので、生きていることをダイレクトに実感 します。一日一日を大事に生きている感じです。

今後の目標は?

看護師資格や経験を活かして、今後も登山仲 間や登山にかかわる人たちの健康を守ることに 役立ちたいです。

14座の挑戦が終わった後は、世界中の子ども たちを呼んで、ヒマラヤで冒険できるような活 動をすることが目標です。友人が登山で癒され て帰っていくのを間近で見ているので、大人も 楽しんでもらえるような山での活動ができたら いいなと思います。



2022年7月標高8126mナンガパルバッド登頂

学生へのメッセージ

内科病棟で白血病の患者さんに出会ったり、雪山登山で生と死を身近に感じ、「やりたいことをやる」「楽し みながら生きていく」ということを強く思うようになりました。私が登山を「楽しい」と思って続けていた ら、様々なレコードができたように、「楽しい」と思うように生きているとそれが積み重なり、大きな目標に なっていくと思います。色々なものに興味をもって、自分の楽しみを見つけ、続けてほしいと思います。

04 学生生活

■ RCT☆LINK

4年 松田 磨依

皆さん、充実した大学生活をお過ごしでしょうか。 この原稿を考えている今、私は全ての実習を終えて います。実習を振り返ると、貴重で素敵な経験であ ったと感じています。

私はとても緊張しやすく心配性で、自信もなかっ たため、実習のたびに不安で泣いていました。自分 の出来なさを悔やんだり、どうしたら患者さんにと って一番良い看護ができるのだろうかと悩んでいた からだと思います。

実習で特に印象に残っているのは老年看護学の実 習先での経験です。家族からの手紙をもらった受け 持ち利用者さんが「こんな体になっちゃったから、

(家族に)会いたいのに会えない」と仰り涙を流し ました。私は、利用者さんの気持ちをご家族に伝え ることはできないかと考え、手紙を書くことを計画 に立て、実際に手紙を書いていただきました。その 手紙をご家族にお渡しすると、感謝され、安心して いただくことができました。このとき、患者さんやそ の家族に寄り添い思いやりを持つことが私のしたい



保健師課程の仲間(下段左から4番目が松田さん)

看護の一つであり、大切にしていきたいことである と改めて気づきました。この経験は、私が今後看護 師として働くうえでの基盤になっていくと思います。

このように自分の看護観に気づくことができたの は、出会った患者さんだけでなく、指導者の方、担 当してくださった先生方、実習グループのみんなや 友達、そして家族に支えられたからだと思います。 卒業までの残りの大学生活も周りの友達と楽しみな がら努力し、卒業後も大学生活で感じた気持ちや経 験を忘れずに頑張っていきたいと思います。

⇒ 次回RCT☆LINKは3年高柳ひかりさんです

写真で見る学生生活

「英語 (ペアワーク) |

本学では国際的な場でも活躍できるコミュニケ ーション力育成のため、英語教育に力を入れてい ます。医療分野でもグローバル化が進み、病院で の英語コミュニケーションが欠かせません。その ため、本学ではより実践的な力を身につけられる よう、授業内でペアワークを取り入れています。

写真は1年生の英語の授業風景です。この授業 では、病院での様々な場面を想定し、英語でどの ように対応するか教科書と視聴覚教材を使って表 現や発音を学んだあと、看護師役と患者役に分か れてペアで練習します。最初は恥ずかしそうに練





習していますが、しだいに互いの発音にアドバイ スをしたり、台詞にアレンジを加えたりして会話 に慣れていきます。このようなペアワークを通し て、英語でのコミュニケーション力の向上と共に、 看護師に必要な能動的にコミュニケーションをと る姿勢や、相手に対して親身に寄り添う傾聴力が 身に着くことを期待しています。

キャンパス紹介

「いとすぎ」

本学には「いとすぎ祭 (大学祭)」「いとすぎの 丘(本紙)」と、「いとすぎ(糸杉)」の名前のつく ものがいくつかありますが、その理由をご存知で しょうか?

糸杉とは、赤十字創立のきっかけとなったイタ リア北部の戦場 (ソルフェリーノの丘) に群生し ている常緑樹です。戦死傷者4万人ともいわれる 壮絶な戦いが繰り広げられていたソルフェリーノ の丘で、十分な医療を受けられない負傷者の惨状 を目にしたアンリー・デュナンは、地域住民とと もに敵味方区別なく救護活動を行ったことをきっ かけとして、赤十字を創立しました。

1959年の赤十字思想誕生100周年記念行事の 際、この戦場跡に自生していた糸杉 の種子が集められ、世界中の赤十字 社に送られました。その一部が60 年以上大切に育てられ、現在は食堂 中庭で学生を見守っています。

まっすぐに育つ糸杉は赤十字の 「人道」の精神と歴史を伝えるシン ボルツリーです。



05 Information

Event (11月~3月)

■ 大学行事

5日(土) 大学院説明会

26日(土) 推薦選抜・社会人特別選抜試験

12月 29日(木) 冬期休暇(~1月3日(火))

1月 28日(土) 大学独自選抜試験

2月 18日(土) 第2回大学院入学試験

3月 4日(土) 大学入学共通テスト利用選抜(後期)

15日(水) 卒業式

| 令和4年度公開講座・専門職向け研修会日程

■ 公開講座

日時	領域	テーマ
令和5年3月18日 (土) 10:30~12:00	第1部 小児看護学 岡田摩理教授	第1部 安心できる子育てのヒント ~子どもの心と身体の特徴を知って、楽しく子育てしましょう~
	第2部 専門基礎 森田一三教授	第2部 子どもの歯と口の健康

■ 専門職向け研修会

日時	領域・講師	テーマ	備考
令和4年12月17日 (土)	岐阜大学	対応に配慮が必要な看護師の育成	オンライン
13:00~16:00	川上ちひろ先生		(Zoom)開催
令和5年1月21日 (土)	在宅看護学	はじめての臨地実習指導〜地域・在宅看護篇〜	オンライン
13:00~16:00	松田優子講師		(Zoom)開催
未定	在宅看護学	臨床における研究倫理 (仮)	オンライン (Zoom)開催

令和3年度 事業活動収支計算書 (予算対比)

(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

	■事業活動収入の部 (単位:円)				
区分	科目	予 算	決 算	差額	
教育活動収入	学生生徒等納付金	897,227,000	878,299,000	18,928,000	
	手数料	32,045,000	20,754,000	11,291,000	
	寄付金	4,730,000	5,688,634	△ 958,634	
	経常費等補助金	145,160,000	143,865,186	1,294,814	
	付随事業収入	750,000	8,814,804	△ 8,064,804	
	雑収入	4,429,000	6,283,041	△ 1,854,041	
	内部取引	6,615,000	7,930,526	△ 1,315,526	
教育活動収入計		1,090,956,000	1,071,635,191	19,320,809	
外教 収育	受取利息・配当金	9,000,000	7,549,202	1,450,798	
入活動	その他の受取利息・配当金	0	0	0	
教育	育活動外収支計	9,000,000	7,549,202	1,450,798	
特別収支	資産売却差額	0	0	0	
	その他の特別収入	350,000	11,967,991	△ 11,617,991	
特別	則収入計	350,000	11,967,991	△ 11,617,991	
事業活動収入計		1,100,306,000	1,091,152,384	9,153,616	

	■事業活動支出の部 (単位:円)					
区分	科目	予 算	決 算	差額		
教育活動支出	人件費	702,252,000	667,368,984	34,883,016		
	教育研究経費	336,400,000	323,580,174	12,819,826		
	管理経費	103,184,000	90,705,555	12,478,445		
	内部取引	17,357,000	16,351,798	1,005,202		
教育	育活動支出計	1,159,193,000	1,098,006,511	61,186,489		
外 支 出 動	借入金等利息	0	0	0		
企活動	その他の教育活動外支出	0	0	0		
教育活動外支出計		0	0	0		
特別	資産処分差額	0	2,549,189	△ 2,549,189		
支出	その他の特別支出	0	0	0		
特別	削支出計	0	2,549,189	△ 2,549,189		
事業活動支出計		1,159,193,000	1,100,555,700	58,637,300		
基本金組入前当年度収支差額		△ 58,887,000	△ 9,403,316	△ 49,483,684		
基本金組入額合計		△ 40,367,000	△ 14,753,911	△ 25,613,089		
当年度収支差額		△ 99,254,000	△ 24,157,227	△ 75,096,773		

令和3年度の財務状況は、上記のとおり事業活動支出の部の教育活動支出 人件費、教育研究経費、管理経費の支出減と事業活動収入の部の特別収入 のその他の特別収入 (大学改革推進事業補助金等) の収入増により、予算対比 (差額) が生じております。

開学20周年記念事業にかかるご寄附のお願い

本学は来る2023年4月に開学20周年を迎えます。日本赤十字社愛知支部病院救護看護婦養成所に始まり、 2004年に日本赤十字豊田看護大学として豊田市に設立されました。関係機関のご協力や地域の皆様のおかげをも ちまして迎える記念すべき20周年の記念事業 (施設整備並びに教育研究活動の充実) に広くご寄附を受け付けて おります。

【受付期間】 2024年3月末まで随時、受け付けております。

【募集金額】 個人 寄附金: 1□ 10,000 円(1□以上から受け付けております。)

法人 寄附金: 1 0 100,000 円 (1 0 以上から受け付けております。)

【申込方法】 「寄附申込書」をご利用ください。申込書は大学ウェブサイトよりダウンロードし

所定事項をご記入の上、事務局までお届け(郵送/FAX/メール)願います。

三菱UFJ銀行 豊田支店 普通 4545333 【振込先□座】(銀

> (口座名) 日本赤十字豊田看護大学

(信用金庫) 豊田信用金庫 朝日支店 普通 1020525

日本赤十字豊田看護大学 学長 鎌倉やよい (□ 座 名)

(郵便振替) 00840-8-68673

日本赤十字豊田看護大学 (口 座 名)

【連絡先】 日本赤十字豊田看護大学 TEL0565-36-5111 20周年記念事業担当まで 皆様方からのご厚誼とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

サポーターズ募金(寄付金)

教育研究環境充実のための設備や教育資材等を適時適切に整備し、充分な教育環境と学生生活の支援を学生に対 して行うことを目的として、日本赤十字豊田看護大学サポーターズ募金"いとすぎ募金"を創設いたしました。

"いとすぎ募金"の趣旨をご理解・ご賛同いただき、皆様からのご支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し 上げます。

【活用方法】①教育活動の充実 ②研究活動の充実 ③奨学金制度の充実 ④学生生活の支援

⑤施設整備の充実 ⑥社会連携の推進

【募集期間】毎年度募集(随時受付)

【募集金額】個人1口 5,000円

法人10 10,000円 ※10から100程度お申込みいただけますと有難く存じます。

【申込方法】本学ホームページより「寄付申込書」をダウンロードいただき、本学経理課あてにE-mail・FAX・ 郵送いずれかの方法によりお申し込み願います。

【税制上の優遇措置】本学への寄付金は税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。 ※詳細は本学ホームページトップ画面にあります「ご寄付のお願い」をご確認ください。

最新情報をチェック!

入試情報やイベント情報などを発信しています。ぜひフォローをお願いします!

LINE公式アカウント











集後

今年も残すところ1か月余りとなりました。皆様にとっては、どのような 1年だったでしょうか。

「いとすぎの丘」 Vol.36では、本学初となる大学院博士課程の修了生 誕生のニュースと登山家として活躍する渡邊さんのインタビューを掲載 しました。大学卒業後のキャリアや人生について考える機会になったの ではないでしょうか。

医療現場では、新型コロナウイルス感染症により大変な状況が続いて います。厳しい状況下で働く医療者の皆様、そして本学の卒業生に心か ら敬意を払うとともに、これから医療の現場に巣立っていく学生たちに エールを送りたいと思います。

最後になりましたが、渡邊さんの14座登頂を本学教職員一同、心より 応援しています。

いとすぎの丘

Vol.36

発行日/2022年11月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学 入試・広報委員会、企画・地域交流課

(0)

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33 TEL 0565-36-5228 (ダイヤルイン) FAX 0565-37-8558

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp HP https://www.rctoyota.ac.jp/